

新しい図書館を みんなで創ろう！



新しい図書館は、「亀山市立図書館整備基本計画」では、「多機能型図書館」をめざすものとしています。これまでも、「多機能型図書館」という方向性は、市広報や図書館市民ワークショップ、ニュースレターなどでもご紹介してきましたが、図書館における「多機能」とは、なかなかイメージが思い浮かばないとお声をよくいただきます。

現在の図書館に対して何が付加されれば「多機能型」となるのか、「多機能型図書館」になればどのような変化があるのでしょうか？

近年、他市町でも「多機能型」とされる図書館の整備が行われています。これらの事例の紹介しながら、「多機能型図書館について考えます。

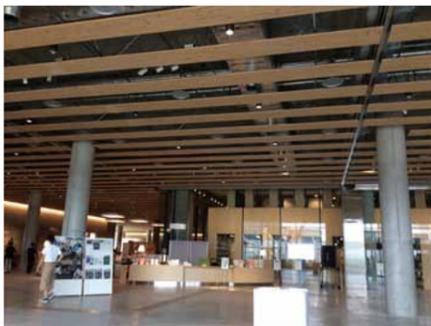
「多機能型図書館」の事例

各地の「多機能型」をうたっている図書館は、大きく二つのタイプに分けることができます。実際にはその多くが混合タイプで、タイプ分けは厳密に分けられるものではなくどちらの性格が強いといった視点となります。

【複合タイプ】

図書館と別の施設を同一、あるいは隣接して整備することで、図書館とそれ以外の機能の展開を図るものです。例えば、文化ホール、博物館、美術館などと併設することで、その地域の文化発信の拠点機能を持たせる、あるいは商業施設との併設によって地域活性拠点をめざすものです。

このタイプの場合、図書館自体、そのほかの施設は独立した存在となりますので、複数の施設がそれぞれの取り組みを行い、必要に応じて連携した事業を行うことで目的達成に向けた相乗的な効果を図るものです。厳密にどのようなものであれば複合タイプとするのかは難しいのですが、三重県立図書館、岐阜市メディアコスモス、などが挙げられます。



【複合タイプ】岐阜市メディアコスモスのホールと中央図書館内



【一体化タイプ】武蔵野プレイスのカフェと児童コーナー

【一体化タイプ】

単体の図書館の内部において、さまざまな機能も付加されているものです。複数の施設の合築というよりも、さまざまな機能を図書館に付加することで図書館本来の機能をより広くとらえ、その地域で図書館が果たす役割を一層高めていくことをめざすものです。

例えば子育てに関する相談コーナーや起業や地域ブランドの創出などのビジネス支援、観光や地域文化の発信などと、これらに関連する図書とを一体化させて、図書館が地域で果たす可能性をより多く引き出すものです。

複合タイプとの混合が多いのですが、安城市中央図書館（アンフォーレ）、塩尻市中央図書館（エンパーク）、武蔵野市立図書館（武蔵野プレイス）などが挙げられます。

亀山市における新図書館は、一体化タイプの「多機能型図書館」をめざします。

第6回図書館市民ワークショップ

平成30年9月2日（日）10:00～12:00に、亀山市総合保健福祉センター（あいあい）2階大会議室で開催しました。

「図書館のレイアウトを考える！～図書館の基本設計案について考えよう！～」をテーマに、現時点での新図書館のゾーニングに関する考えに基づいて、各機能の大まかな配置構成を確認し、亀山市ならではの「多機能型図書館」としての機能が担保されていることをみんなで意識することを目的としました。

まず市民ワークショップでは、配置や階層、ゾーニングについて現時点で基本的な方向性について説明を行いました。これは、グループワークを行う前提条件として、亀山駅前2ブロックの南側に独立して図書館の建物を配置し、その規模は延床面積3000㎡程度の3階建（一部4階建）、地下に駐車場を設置するものと想定しました。

また、ゾーニングの方針は、1階を賑わい、2階に親子やヤングアダルト、3、4階は落ち着いたゾーンとすることで、上階へ向けて「動から静」への空間創出を想定したものです。

各ゾーンでは、図書館の窓口と周辺施設との連携による子育て支援、郷土資料スペースにおける亀山市名誉市民の中村晋也氏の紹介など、さまざまな機能が一体となった「多機能型図書館」の実現をめざすものとしています。

なお、この考え方は議論のための前提条件としたもので、建築の詳細はこれからじっくりと検討を行ない、その検討を踏まえて案を導き出すものです。

この前提のもとで、開架閲覧機能のゾーンにおいて周辺の付帯機能との関係性をみながら、どのあたりにどんなジャンルの図書があるとよいかをグループワークで意見を出し合っていました。



図書館の配置のイメージ（案）

